なくおさめている。ただ、「フロント」は自動車のフロントガラスの意味だろうが、言葉不足か。

液晶のあかりがほのかに浮かびたる雑踏にゐて君を待ちたり　萩野聡

上句、今ふうを表現するのに工夫のある表現と思う。明治期にガス灯がともって都会の夜が変わって以来、近年、ＬＥＤが普及するまで、その時代の「今ふう」を表現するさまざまな工夫がなされてきた。私は〈街燈は夜霧にぬれるためにある〉という、昭和十年代の渡辺白泉の有名な俳句を思い出している。

折り皺ある競馬新聞　呉竹体（ゴシック）の「一馬身差」の時間を思ふ　花美月

競馬新聞の見出しにゴシック体で「一馬身差の勝利」などと書かれているのを見ての作。一馬身差は０・２秒差とふつう言われている。競馬通ではない作者の素朴な疑問。その素朴さが新鮮。

あおあおと苔を宿らす石仏に今日降る雨はよろこびであれ　倉石理恵

雨中の京都旅行をうたう一連中の作。傘をさして苔を濡らす雨を見ている場面である。「あおあおと苔を宿らす石仏」が、うまい。下句、一首の中心たる石仏への共感、共鳴の表現だろう。だから、石仏のよろこびは、つまり作者のよろこびだと読者に読めるのだ。

信号運悪すぎる朝　鼻歌を引き連れながら自転車が過ぐ　増田満美子

日常生活のささいな出来事をていねいに表現して、読者に「あるある」と思わせる一首にしあげている。自転車に乗っていたのはどんな人物だったのか、公約数が読めそうである。それだけ表現が的確だから、である。

巫女が舞う鈴と太鼓と笛の音が貴船の谷に漂う時間　三宅徹夫

初句で切れて、「鈴と太鼓と……」以下は一気に読み下せばいい。貴船神社の有名な夏越の大祓式だろう。音をうたい、音がただよう時間に焦点をしぼって成功した。

信濃なる舞鶴山麓縛られて厩に立てり木彫神馬（じんめ）は　北澤道子

「縛られて」とあるのは、手綱を厩の柱に括られている意味なのだろう。隣の歌に「百七十年」とある。百七十年前つまり天保時代のころからつながれている、の意味と思う。神馬をうたって、第二句から三句が独特。

車椅子猫と共存譲り合ふ俺様のものぞ介護保険は　海上晴安

いずれも猫が出てくる今月の五首。仙人のようなとぼけたユーモアが楽しい。過日、ご家族からの電話で、海上さんが逝去されたよしを伺った。海上さんは、何年間か東京歌会に出席されていた。旧制高校的雰囲気を高齢になるまで持ち越したようなユニークなキャラクターの方だった。ご冥福を祈りたい。